

**【密室調教】冷徹社長の仕組んだ檻
～止まったエレベーターの中で犯される、逃げ場0の絶望空間～
サンプル（一部抜粋）**

「...ん？お前まだ残っていたのか。
今日は台風だから全社員早く帰るように伝えていたはずだが？」

「...仕上げなきゃいけない資料があったって？
.....仕事を押し付けられたのか。
（少し呆れたようなため息）本当に、使いやすい駒だよな、お前は。」

（高級そうな靴の音。エレベーターに乗り扉が閉まる音）

「...前にも言ったのにな。
断れない性格をどうにかしろって。
じゃなきゃ利用されるだけだ。」

（ガタンとエレベーターが停止する音・空調がスーッと消えて電気が消え無音になる。）

「...台風のせいでエレベーターが止まったか...。
慌てるな。すぐに動くようになる。」

「...暗くてお前の身体が見えないのが残念だな。
...でも、いいか。暗い方がお前の声は鮮明に聞こえる。」

（舌の先で乳首を舐めあげ、じゅるっと吸う音）

「...ダメって言いながら、どんどん声が大きくなってる。」

（強引にスカートの中に手を突っ込み、下着の上からクリトリスを撫でる布擦れの音）

「...やめて？
...俺にここで我慢しろって？」

「俺は今、お前がほしい。」

「（くすっと小馬鹿にするように笑う）
今、少し足を開いただろう？お前は...単純だな。
人の本心を何一つ...見つけられない。」

「...ほら、後ろを向け。
壁に手を突いて。」

「（威圧的に耳元で囁く）早く。」